

2億年の時を超えて

7月27日（日）、牧島地区の多々良海岸で『カブトガニの産卵を観る会』が開かれました。『生きている化石』の神秘的な営みを観察しようという県内外から集まった約150人の観客が見守る中、9組のつがいが見守る中、乗って姿を現し、泥の中に卵を産みつけていました。またこの日、市内の小・中学生と高校生が、1年をかけて学校で飼育したカブトガニの幼生を持ち寄り、無事に成長することを願いながら放流しました。

カブトガニの卵や幼生は、幾多の苦難を乗り越えながら、10年余りの歳月を経て親に成長し、産卵のためにこの浜辺に戻ってきます。



カブトガニの生態を解説する伊万里高校理化・生物部の生徒の皆さん



カブトガニの実物を体験



干潟でカブトガニの幼生を放流する子どもたち



元気よく泥の中に潜るカブトガニの幼生

編集室から

今年、市制施行60周年の年に当たります。人間に例えらると、還暦を迎える昭和29年の午年生まれと、いったところですが、実は、我が家にも午年生まれが2人います。この干支が妙に気になり調べてみると、古代中国で世の出来事などを統計的に分析し、時流の変化を予測する学問として確立したもので、日本でも政治や日常生活の場で活用されてきました。そんな今年の干支は『甲午』。活発な行動力を持つ『午』に、躍進するという『甲』の性質が加わり、良い意味でも悪い意味でも、発展や変動をもたらすとされます。振り返って、伊万里市の情勢はどうかというと、西九州自動車道の延伸や、各種災害の危険性の増大といった変動の要因が存在しています。干支自体は非科学的ですが、私にとってこの節目の年は、過去の歴史や先人の努力を学ぶとともに、地域や市の将来を改めて考える機会となりました。皆さんはいかがですか。(拓)



人のうごき

平成 26 年 8 月 1 日 現在

●人口	57,052 人	(- 15)
男	27,312 人	(- 3)
女	29,740 人	(- 12)
●世帯	22,682 世帯	(+ 18)
	()	は前月比

広報伊万里 2014-9

- 発行日／平成 26 年 9 月 1 日
- 発行編集／伊万里市情報広報課広報係 (0955)23-4313 (ダイヤルイン)
- 〒848-8501 佐賀県伊万里市立花町 1355 番地 1
- 伊万里市のホームページ <http://www.city.imari.saga.jp/>
- 印刷／株式会社 三光